

アドバイザー委員会の評価と助言を受けて

令和元年 11 月

国立研究開発法人科学技術振興機構 研究開発戦略センター

研究開発戦略センター（以下「CRDS」という。）では、その活動ならびに戦略プロポーザル（提言）等の成果とその活用状況等を評価し、業務の改善に活かすため、有識者から構成される研究開発戦略センターアドバイザー委員会（以下「委員会」という。）から評価と助言を受けている。

平成 31 年 2 月 26 日に開催された第 14 回委員会においては、平成 30 年度の活動を中心に評価と助言が行われた。

本稿では、委員からの評価・助言と、それらを受けた CRDS の活動方針について述べることとする。

1. 評価と助言の整理

主に「CRDS 全体の活動」「各ユニットの活動」を基に、各委員より、センターの活動状況や課題、今後実施したいと考える取組等について評価と助言をいただいた。

評価内容と今後の活動のための助言について、以下 1) ～ 4) として整理した。

1) CRDS 活動の評価、および充実に向けて

(助言内容)

- CRDS はシンクタンクとしてしっかり取り組んでいる。
- 活動の成果を社会に活かせるよう、提言を国の政策に反映する努力をお願いしたい。
- 日本の大学の地位低下などについて組織的な対策の研究が重要ではないか。
- 基礎科学・基礎研究や、10 年 20 年といった長期展望、長い目で育てていくイノベーションに資する提言を期待する。
- 最新の研究動向に対応した、研究者が共用できる機器のプラットフォームやグローバルなデータプラットフォーム等に関する提言を期待する。
- 個人の力を伸ばし、自由なイノベーションを生み出す個人のフェローシップを考えてはどうか。若手研究者の雇用や活発化にもつながる。
- 提言を具体化するために、人材育成の観点でも、CRDS で経験を積んだ人材が様々なところで活躍できると良いのではないか。
- 成果が JST のプロジェクト立案に役立てられるなど、JST が今後やろうとしていることに反映されると分かりやすい。
- 「分野」を越えるだけでなく、組織や国を越えた提言の策定にも取り組んでほしい。
- 産学官の技術戦略担当者にとって特に海外政策等は有用であり活用を促してほしい。
- CRDS の HP において、戦略プロポーザル、俯瞰報告書、フェローのサイエンスコラム等が検索の上位に来るような工夫が必要。

2) (特に) 社会との関わりの観点について

(助言内容)

- 科学技術の発展だけでなく人類全体の幸せを考えると、社会のあり方、人文科学のあり方が非常に重要。既に CRDS はそういう活動をしているが、引き続き注力してほしい。

- ・ 活動の成果を実現する手段の一つとして、フェローの方々が科学と社会に関する理解を深めると、フェローのファンクションが広がるのではないかと。
- ・ これから育っていく人に、いかに幅広い知識とかもの見方だとかを持ってもらうか。若い人に勇気を与えて、自分の力で世の中を変えてみたいという考え方が根付くと良い。

3) (特に) 異分野連携、分野横断の観点について

(助言内容)

- ・ 科学技術基本政策を考える CRDS で、人文社会科学との連携など異分野融合、横断的な報告書を出せたということが大変面白い。
- ・ 異分野融合や新しい概念を作っていくということは科学技術、新しい人材の育成においても非常に重要で、そういう分野を開拓しないと負のスパイラルに入っていく。
- ・ 一つの狭い研究領域で見るのではなく、視点をいかに広げるかが一番重要。
- ・ マテリアルインフォマティクスのような取組ではポリシーとシステムも検討する必要があり、次のステップに進めるには異分野の人材が入って発想を広げる必要がある。
- ・ 情報セキュリティはあらゆる研究領域において重大な問題。科学技術を守る視点での取り組みを期待する。

4) 変化するステークホルダーからのさらなる要請

(助言内容)

- ・ 策定された戦略は非常に参考になるが、どうやって産業になるのか、難しければ産業界ともっと議論して、どうやったらイノベーションが起きるのかを考えてほしい。
- ・ 政策側だけではなく、研究者個人や、社会の具体的なところでもっと活用いただけるのではないかと。
- ・ 幅広い議論を期待するならば、提言に基づく研究開発の成果を社会で使ってもらい、あるいは実装するには何が必要か、といった所まで踏み込む必要があるのではないかと。
- ・ 社会実装に到達するための検討まで含む提言とするため、アカデミア、産業界、金融、ベンチャー企業等との一層の連携、情報収集をする仕組みを立ち上げていただきたい。
- ・ 外部とのインターフェース／産業界とのインタラクションについて、産官学のフェローによる会議などの異分野交流も、課題の明確化、戦略立案に有用かもしれない。
- ・ 国に対して、どういうところを重点的にやるべきという方向性を出せないか。日本の土壌を考えた上で、勝てるところに資金をつぎ込むという考え方も必要ではないかと。
- ・ (再掲) 提言を具体化するために、人材育成の観点でも、CRDS で経験を積んだ人材が様々なところで活躍できると良いのではないかと。
- ・ (再掲) 基礎科学・基礎研究や、10年20年といった長期展望、長い目で育てていくイノベーションに資する提言を期待する。
- ・ オープンな戦略だけではなく、クローズドの個別戦略も深めていただきたい。

2. 評価・助言を受けた CRDS の活動方針

CRDS は国の科学技術イノベーションに関する調査、分析、提案を中立的な立場に立って行う組織として、科学技術分野や科学技術関連政策の俯瞰、社会や海外動向の分析から課題を抽出し、これらを基に政策を提言し、さらに提言の活用促進と実現に向けて活動を行っている。CRDS の提言は、政府関連機関における各種政策・施策の立案に反映されてきただけでなく、JST の各種事業の立案・充実にも活用されてきた。

一方で、世界においては、科学技術イノベーションを成長戦略の柱と位置づけ、実現に向けて、科学技術政策をはじめ関連する諸政策を総合的に推進しようとする動きが目立ってきている。日本においても、社会のさまざまなところで科学技術イノベーションの貢献が求められる中、イノベーション実現に向けて、CRDS に期待される役割はより多様に、かつ拡大している。

評価と助言を受けて、CRDS は今後も我が国の科学技術振興とイノベーション創出を先導する公平中立なシンクタンクとしての機能を強化しつつ、より多くのステークホルダーから信頼され、期待される CRDS を目指し、次のような取組を行っていく。

- CRDS は、科学技術イノベーションに関する調査・分析を基盤とするシンクタンクとして、研究開発分野の現状や国内外の政策動向の俯瞰的分析をもとに、我が国の科学技術振興とイノベーション創出に有効な提言を行う。それを通じて、新しい知の創造や社会の持続的発展に貢献するとともに、研究開発を取り巻く環境や仕組み、すなわち、エコシステムの強化にも貢献する。
- 上記を実現するために、CRDS の強みである生きた知見の獲得や洞察に基づく研究開発の俯瞰や新たな潮流の見極めを引き続き追求していく。また、社会、経済、倫理などの潮流に関する理解を深める活動を継続し、CRDS 内部の知見の充実を図る。
- 新たな知を生み出し、また、知の結合を促進してイノベーションの創出を図るには、横断的・融合的な視点での知見が重要である。そのため、CRDS 内の協働・連携を一層推進し、異分野融合・分野横断の取組を強化する。(2019 年度には異分野融合・分野横断の調査提言を行う体制を構築し、異分野融合や研究力向上に資する研究環境、研究システムに関する報告書を発行している。)
- ステークホルダーである政策当局、学界・研究者、産業界・企業、市民と課題や問題意識を共有するため、まずは発信について引き続き注力する。ステークホルダーとのコミュニケーションを強化することにより、提言等の社会における一層の活用を図る。(科学技術動向や提言内容等をわかりやすく解説・情報提供するものとして、従来からのコラム等に加え、2019 年 4 月より日刊工業新聞にて毎週連載を行っている。)
- これまで拡大・蓄積してきた CRDS 内の経験や知識、情報、提言内容などを、組織的に整理・共有する。それにより、研究力の向上や Society 5.0 の実現といった、時代の要請や社会的課題に応じた提言や発信を効果的に、かつ迅速に行うことを目指す。
- 研究開発を取り巻く環境や仕組み、すなわち、エコシステムにおける貢献度を高めていくためには、CRDS とは異なる強みを有する機関とのネットワーク構築が重要と思われる。科学技術イノベーション創出に関連するさまざまな共創的プラットフォームへの参画も視野に入れ、まずは各機関との対話を開始し、CRDS の貢献のあり方を探ることとする。

以上